

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 一般財団法人 京都YWCA

1. 事業名称 多文化子育て支援としての京都日本語教育実践プログラム

2. 事業の目的 京都市内、及び近郊で暮らす外国語を母語とする親が子育てをするために必要な知識と日本語を習得するための日本語教室と、その学習を支援するボランティア養成を企画運営する。

3. 事業内容の概要 京都YWCAが行っている日本語学習支援、外国籍住民の支援、子育て支援、ボランティア育成の実績と経験を活かし、地域の関係団体とも連携して、京都市内、及び近郊に居住する外国籍住民に必要な日本語学習支援とボランティア育成を行う。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 運営委員会報告

事業名称:多文化子育て支援としての京都日本語教育実践プログラム

団体名:一般財団法人京都YWCA

運営委員数:9名

運営委員会開催回数:3回

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	2012年7月21日(金)	2.5時間	京都YWCA会館	池上信子、上村諭巳子、小寺敬子、神門佐千子、篠田茜、花岡正義、平野富希、山本知恵、井上依子	事業全体の説明と事業内容(日本語教室、養成講座、教材作成)、担当者について検討	①日本語教室の内容と日程、講師案について ②学習支援ボランティア養成講座の講座内容と日程、担当講師について ③教材作成の内容と作成までの工程、担当者について ④講師との交渉内容について
2	2012年8月10日(金)	3時間	同上	池上信子、上村諭巳子、小寺敬子、神門佐千子、篠田茜、花岡正義、平野富希、山本知恵、井上依子	①学習支援ボランティア養成講座の内容と日程の決定 ②日本語教室の内容、日程について決定	①学習支援ボランティア講座の講師と検討した講座内容についての報告。②従来のボランティア養成講座ではなく「生活者としての外国人」のための日本語のカリキュラムを活用した内容にする。③日本語や教授法の知識だけでなく外国籍住民を取り巻く地域の現状、京都府下の学習支援の取り組み、実際のクラスの見学等を盛り込むことを決定。京都府国際センターへの協力依頼について決定。④日本語教室についての内容、日程の決定。講師の決定。地域で活動する専門家(保健士、助産師、消防署員等)の協力を得て教室を運営することを決定。⑤養成講座、日本語教室での運営委員の役割について⑥広報先についての検討。⑦学習教材の内容について決定。担当は日本語教室担当の講師間で取り組むことを決定。
3	2013年3月20日(水)	2.5時間	同上	池上信子、上村諭巳子、神門佐千子、篠田茜、花岡正義、山本知恵、井上依子	事業の報告、及び評価、今後の取り組みについて	①学習支援ボランティア講座の内容、参加者アンケート結果等を報告。②日本語教室の内容、参加者からの感想(口頭)、講師からの評価、意見などを報告。③学習教材についての中間報告と今後提出までの行程を報告。④運営委員からの事業についての意見、評価を共有 ⑤2013年度は文化庁の委託事業には申請してないが、これまでの4年間で行った事業経験を活かし、今後も他団体、京都YWCA内の別部署とも協力して日本語学習支援を継続することを確認

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 : 子育てのための日本語教室

(2) 目的・目標:

京都市内、及び近郊で暮らす外国語を母語とする親が子育てをするために必要な知識と日本語を習得することを目的とする。また、講座中には地域の子育て支援の場に出かけて行ったり、日本人の子育て中の親と交流を持ち、講座終了後は積極的に地域で活動する自信をつけることを目標とする。

(3) 対象者 : 日本語を母語としない方。

(4) 開催時間数(回数) 37時間 (全 19回)

(5) 使用した教材・リソース

標準的カリキュラム案、2010年度、2011年度同事業で作成、使用したハンドアウト、「京都市生活ガイド」英語・韓国語・中国語版((公財)京都市国際交流協会)、病院の問診票、診察券、「防災ガイドブック」((公財)京都府国際センター)、防災グッズの現物、阪神淡路大震災の写真、テレビ等で放映された防災の心得の映像、「京都市子育て応援パンレット」(京都市)、保育園のお便り、給食表等、ウェブサイト「多言語生活情報」((財)自治体国際化協会)

(6) 受講者の総数 12 人

(出身・国籍別内訳 韓国 5人、中国 2人、ベトナム1人、タイ 1人、インドネシア1人、ロシア1人、米国1人)

(7) 受講者の募集方法

京都YWCA のホームページに掲載。

京都市内の区役所、保健所、大学の学生課、留学生課、留学生寮、(公財)京都市国際交流協会、(公財)京都府国際センター等国際交流関係団体、多国籍料理店、子育て支援団体、京都YWCA 会員などへチラシの郵送。および、Eメール等で案内

以下、「子育てのための日本語教室」案内

2012年度文化が「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

無料で
子育てのための
日本語教室 受講生募集

保育あります

日程：2012年11月19日(月)～
2013年2月25日(月)

日本で子どもを育てるのに心配はありませんか？
京都YWCAでは「子育てと教育」「健康と安全」をテーマに
子どもを育てるための日本語教室を開きます。ぜひ、ご参加
ください。

テーマ	日時	学習内容
子育てと教育 (9回)	2012年11月21日～ 2013年2月6日 水曜日 10:30-12:30	・ 保育所や幼稚園の入園、小学校や中学校の入学手続き、 ・ 幼稚園や小学校の行事、 ・ 先生との会話やお慶りで使われる言葉、 ・ お弁当を作ったり、日本人のお母さんとの交流も予定しています。
健康と安全 (10-11回)	2012年11月19日～ 2013年2月25日 月曜日 10:30-12:30	・ 育児や産後ケアについて、 ・ 病気やけがの名前や病院で使うことば、 ・ 医師、看護師との会話、 ・ 地震や台風など災害の時、よく使われる言葉。

- * 2つのテーマを学習することも、1つのテーマだけを学習することもできます。
 - * レベルチェックを11月12日(月)、11月14日(水)に行います。
 - * テーマに沿った宿題の提出にはご協力をお願いします。日本語がうちは日本語でお願いします。
 - * 保育料がかかります。*内容は変更されることがあります。ご了承ください。
- 対象：18歳以上のひらがなの読み書き、簡単な日本語のできる外国人が母語の方を対象とします。
- 定員：15名(申込み参加の随分は随分減ります) 参加費・保育：無料
申し込み方法：申込書を京都YWCAに郵便かFAXで送ってください。
FAX 075-431-0352 受付時間 11月10日

場所：京都YWCA会館
〒602-8019京都市上京区室町通御所上ル
tel.075-431-0351 fax. 075-431-0352
office@kyoto.ywca.or.jp
http://kyoto.ywca.or.jp/

主催：財団法人京都YWCA



京都YWCA FAX:075-431-0352

おんご こまご にほんごをまよひしつ ことばをたのしみ
2012年度 子育てのための日本語教室 申込書

名前：
性別：
年齢：
住所：
TEL：
E-MAIL：
国籍を希望しますか？はい いいえ 子どもの年齢 月 年 日
お子さんの人数と年齢
(国籍とは関係なく、小学生や中学生のお子さんのことも書いてください)
人 子、 子、 子
希望コース 子育てと教育 健康と安全
これまでどれくらい日本語を勉強しましたか。
時間 / 1週 月 年
日本語について
ひらがなが読める ひらがなが書ける カタカナが読める
カタカナが書ける 漢字が読める 漢字が書ける
日本語で挨拶ができる 日本語で自己紹介ができる 漢字で自分の住所が書ける
レベルチェック希望日 11月12日(月) 11月14日(水)
京都YWCA記入欄：

(8) 日本語教室の具体的内容

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム取組内容

事業名称: 多文化子育て支援としての京都日本語教育実践プログラム

団体名: 一般財団法人京都YWCA

取組名: 子育てのための日本語教室

実施期間: 平成24年11月19日～平成25年2月25日

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者
1	11月19日(月) 10:30-12:30	2時間	京都YWCA会館	8人	韓国 2人、中国 2人、ベトナム 1人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	病院、診療科、保健等について知る	日本の病院、診療科、診察の流れ、健康保険、医療券などについて	1	池上信子	1	井上依子
2	11月26日(月) 同上	同上	同上	9人	韓国 3人、中国 2人、ベトナム 1人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	受診の仕方1	症状から診療科を知る。隣人に助言を求められる言いや、体の部分の名前を知る	1	一色光世	1	高橋正子
3	12月3日(月) 同上	同上	同上	7人	韓国 2人、中国 2人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	受診の仕方2	病院に持っていくものについて、問診票、緊急カードを書く。受付での会話練習	1	一色光世	1	内田匡子
4	12月10日(月) 同上	同上	同上	6人	韓国 2人、中国 1人、ベトナム 1人、ロシア 1人、米国 1人	受診の仕方3	病院で診察を受ける。先生からの問いに答える。	1	高橋正子	1	一色光世
5	12月17日(月) 同上	同上	同上	8人	韓国 3人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	会計と薬について	会計、薬局、薬の説明、飲み方など	1	池上信子	1	内田匡子
6	1月21日(月) 同上	同上	同上	9人	韓国 4人、中国 2人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、米国 1人	救急	急病、救急車を呼ぶ。乳幼児の急病。	1	高橋正子	1	池上信子
7	1月28日(月) 同上	同上	同上	8人	韓国 4人、中国 1人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	感染症と予防について	インフルエンザ、子どもの予防注射、風邪の予防	1	内田匡子	1	池上信子
8	2月4日(月) 同上	同上	同上	7人	韓国2人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人、米国 1人	助産師と話をする	実際の助産師と話す。子どもの健康について等、心配なことを相談する。	1	青野美佐江	1	池上信子
9	2月18日(月) 同上	同上	同上	7人	韓国 2人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	防災と減災1	災害の備え、防災と減災について。実際の防災グッズ、緊急用食料品等を見る。	1	花岡正義	1	太田興
10	2月25日(月) 同上	同上	同上	7人	韓国 3人、中国 1人、タイ 1人、ロシア 1人、米国 1人	防災と減災2	災害の備え、防災と減災について。阪神大震災の際の被害映像や、乳幼児を持つ親が特に気を付ける避難方法等について。	1	太田興	1	花岡正義
11	11月21日(水) 10:30-12:00	1.5時間	同上	9人	韓国 3人、中国 2人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	保育園、幼稚園について知る	保育園と幼稚園、公立と私立、認可と無認可の保育園などについて知る	1	吉村三和	1	オミンギョン、川勝麗子
12	11月28日(水) 同上	2時間	同上	8人	韓国 3人、中国 2人、ベトナム 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	未就園児の生活1	未就園児の生活。(親子サークル、ファミリーサポート)	1	小寺敬子	1	藤田茜
13	12月5日(水) 同上	同上	京都YWCA会館 つどいの広場「なごりこ の家」	8人	韓国 3人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	未就園児の生活2	未就園児の生活。つどいの広場を実際に訪問する	1	小寺敬子	1	藤田茜
14	12月12日(水) 10:30-12:00	1.5時間	同上	8人	韓国 2人、中国 2人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	保育支援について	園以外の子育て支援(病児保育など)	1	吉村三和	1	川勝麗子、
15	12月19日(水) 同上	2時間	同上	9人	韓国 4人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	保育園、幼稚園の生活1	保育園、幼稚園での生活(園での行事、園児を取り巻く言葉など)	1	中川美佳子	1	小寺敬子
16	1月16日(水) 同上	同上	同上	8人	韓国 4人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人	保育園、幼稚園の生活2	保育園児を持つお母さんの生活(ママ友との会話など)	1	中川美佳子	1	小寺敬子
17	1月23日(水) 10:30-12:00	1.5時間	同上	9人	韓国 3人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	小学校の生活1	小学校の入学手続き、小学校生活について知る	1	吉村三和	1	井上依子
18	1月30日(水) 同上	同上	同上	8人	韓国 3人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	小学校の生活2	これまでの復習とお弁当の材料や作り方。	1	藤田茜	1	中川美佳子
19	2月6日(水) 同上	同上	同上	8人	韓国 3人、中国 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、インドネシア 1人、ロシア 1人	お弁当実習と交流会	お弁当実習と日本人お母さんとの交流会	1	藤田茜	1	中川美佳子

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



2013.2.6 お弁当を実際に作る。



2013.2.6 お弁当実習の後、
京都YWCAの子育て支援プログラムの参加者親子と交流。



2013.2.25 防災、減災についての日本語を映像や実際の防災グッズを使って学ぶ。

(10) 目標の達成状況・成果：

検証方法：担当講師、補助者の意見、参加者の感想、教室の様子等

達成状況・成果：

- ① 子育て中、あるいはこれから子育てをする予定の参加者同士の出会いの場となった。
- ② 健康保険等の情報については既知の参加者が多かったが、助産師との会話では、現在妊娠中の受講者から、出産やそれまでの受診等について、具体的な質問があり、必要な情報を提供する良い機会となった。

- ③ 近隣の「つどいの広場」見学の際、参加者の子どもがすぐにその場に溶け込み、日本の子どもたちと一緒に遊ぶ姿が見られた。「つどいの広場」の主宰者からは、外国人受講者へ参加の呼びかけがあり、参加者が自宅の近くの「つどいの広場」へ出かけていく動機づけにもなったと思う。
- ④ お弁当作りは好評であった。子どもに実際に見せたいとのことで、昼食時に食べず、持って帰る受講者もいらした。日本人親子との交流会ではお互いのお弁当を見せ合ったり、子どもたちが一緒に遊んだり、和やかに歓談する様子がかげえた。双方から今後もこのような機会があるとよいとの感想があった。
- ⑤ 防災、減災のクラスでは映像や防災グッズを利用したり、隣家へ「避難場所」を尋ねる宿題を出すなど行った。地震や台風の経験が無い受講者にとっても、具体的な被害や避難方法、防災、減災方法が理解できたようである。

(11) 改善点について :

- ① 学習者のレベルを「ひがらな、カタカナの読み書きと簡単な日本語での会話ができる人」としたが、本年度の参加者は入門から上級まで、レベルに開きがあり、同じ教室活動を行うのが難しい場面があった。今後は学習者の「レベル」にも、少し配慮をしてカリキュラムを組むことが必要と思われる。
- ② 想定した場面で使われる語彙や情報を「知る」ことに重点を置くことと、その語彙を「運用する」ことができるレベルまで教室活動をすることと、両方を満たすことは難しかった。
- ③ 教室外の活動としては、今回の「つどいの広場」の他に「保育園」「幼稚園」「小学校」「児童館」等の見学、体験があるとよいと思う。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称: にほんご学習支援ボランティア入門講座
- (2) 目的・目標 :
地域で日本語学習支援を行う上で必要な日本語教育の知識を身に付ける。外国籍住民を地域の「生活者」として認識し、日本語学習支援ボランティアの役割と、彼女・彼らに必要な日本語支援は何かを見つける視点を養う。また、ボランティア活動を行う上で必要な地域の外国籍住民の状況や、すでに行われている支援等についても知る。
- (3) 対象者 : これからボランティアを始める方、ボランティア経験があっても養成講座を受講するのが初めての方。
- (4) 開催時間数(回数) 24 時間 (全 12 回)
- (5) 使用した教材・リソース
標準的カリキュラム案、『日本語おしゃべりのたね』(スリーエーネットワーク)、『にほんごこれだけ』(ココ出版)、『いっぽ にほんご さんぽ』(スリーエーネットワーク)、『多文化共生のためのテキストブック』(明石書店)、2011 年度「生活者としての外国人」のための日本語

教室ハンドアウト、回覧板、スーパーのチラシ、地域の避難場所ステッカー、小学校の便利
り

(6) 受講者の総数 16 人
(出身・国籍別内訳 日本人 16人)

(7) 受講者の募集方法
京都YWCA のホームページに掲載。

(公財)京都市国際交流協会、(公財)京都府国際センター、京都市市民活動総合
センター、(社福)京都市社会福祉協議会、京都市内の青少年活動センター(7箇
所)、京都YMCA等、関係団体、京都YWCA会員へチラシの郵送。および、京
都にほんご RINGS (京都府下のボランティア日本語教室ネットワーク)のメーリ
ングリスト等で案内

2012年文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業。

にほんご学習支援ボランティア入門講座

京都には多くの大学や研究機関があり、留学生や研究者など多くの外国人の方々が暮らしています。また日本人の配偶者や仕事のために来日している人も増えてきています。昨年の東日本大震災以来、外国の方をきめ細やかなる住民同士の助け合い、支えあいが必要とされている方も多いためではないでしょうか。日常生活に必要な日本語の知識を学ぶお手伝いのできるボランティアが求められています。ご近所やお友達など、また、地域のボランティアグループなどで日本語学習を手伝ってみたいと思っている方、ぜひ、ご参加ください。

日程：2012年9月26日(水)～11月7日(水) (全12回 月・水)
時間：10:30-12:30
会場：京都YWCA (地下鉄丸太町駅から徒歩7分)
定員：20名
受講料：無料
※保育サービス(託児)あります。(要申込)
締切：2012年9月24日(月)
申込み：裏面の申込用紙をFAXでお送りいただくか、e-mailにてお申込みください。

この講座は、これからボランティアを始めたい方、ボランティア経験があっても実務講座が初めての方を対象としています。

1. 日本語学習支援ボランティアについて知る。
2. 日本語の基礎知識。
3. 京都に住む外国籍住民を取り巻く現状。
4. ボランティア経験者の体験談を聞く。
5. 実際のケースを見学する。

京都YWCA
〒602-8019 京都市上京区空堀通土上ル
tel. 075-431-0351
fax. 075-431-0352
office@kyoto.ywca.or.jp
http://kyoto.ywca.or.jp/

YWCAは、キリスト教を基盤とし、世界中の女性が豊かや文化の繁栄を期して力を合わせ、女性の社会参画を促し、人権や健康や環境が守られる平和な世界を築く国際NGOです。

にほんご学習支援ボランティア入門講座 内容

1.	9/26(水)	日本語学習支援ボランティアの役割	浜田麻里さん (京都府立大学教員)
2.	10/1(月)	日本語基礎知識 文法・文型	大阪YWCA 日本語教師会議
3.	10/3(水)	文法・動詞	
4.	10/10(水)	文法・形容詞	
5.	10/15(月)	文字・音声	
6.	10/17(水)	日本語学習支援 入門者への留意点	
7.	10/22(月)	初級者への留意点	神門佐千子さん (京都YWCA-APT) 花岡正徳さん (京都にほんごRINGS)
8.	10/24(水)	中級者への留意点	
9.	10/29(月)	上級者への留意点	
10.	10/31(水)	京都市近郊の外国籍住民の現状 京都府下の日本語教室について	予定
11.	11/5(月)	(公財)京都市国際センターの取り組み	
12.	11/7(水)	ボランティア経験者の体験談	
13.	随時	生活者としての外国人のための日本語とは	浜田麻里さん

浜田麻里さん(第1回、12回担当)プロフィール:
京都府立大学教員、大阪大学大学院文学研究科博士課程退学、大阪大学助手、国際交流基金日本語国際化部、大阪大学留学生支援センターを経て、現職。専門は日本語教育、京都府外国籍住民共生推進懇話会委員、京都市国際交流協会理事。

----- 参加申込書 -----

この申込用紙にてFAXでお申込みください。FAX075-431-0352 *申し込み締切日:2012年9月24日

受講者名:

連絡先 TEL:

E-MAIL:

日本語学習支援ボランティア経験: あり なし

「あり」の方は、活動された団体名・地区・期間:
団体名: 地区:

期 間:

保育サービス: 要 不要

(8) 養成・研修の具体的内容

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム 取組内容

事業名称：日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

団体名：一般財団法人京都YWCA

取組名：にほんご学習支援ボランティア入門講座

実施期間：平成24年9月26日～11月12日

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者
1	9月26日(水) 10:30-12:30	2時間	京都YWCA 会館	16人	日本語学習支援ボランティアの役割	アイスブレイキングの後、ppを使っでの講義。・地域における多文化共生・日本語ボランティアの役割・日本語学習支援の考え方・学習者のニーズを考える・外国人を「生活者」としてとらえる	1	浜田麻里	2	花岡正義 井上依子
2	10月1日(月) 10:30-12:30	同上	同上	13人	日本語基礎知識(文法・文型)	講義とワークを交えて、・「文型とは何か」・日本語で会話ができるようになるために	1	濱本千鶴子	1	井上依子
3	10月3日(水) 10:30-12:30	同上	同上	15人	日本語基礎知識(文法・動詞)	講義とワークを交えて、・国語の文法と日本語学習支援の文法・学習者の疑問から「動詞」について考える	1	村井喜久美	1	井上依子
4	10月10日(水) 10:30-12:30	同上	同上	11人	日本語基礎知識(文法・形容詞)	講義とワークを交えて、・形容詞の役割・学習者の誤りから考える。・意味を理解し使える方法	1	村井喜久美	1	井上依子
5	10月15日(月) 10:30-12:30	同上	同上	10人	日本語基礎知識(文字・音声)	講義とワークを交えて、・日本語の音声の特徴と発音者にとって難しいポイント・日本語文字の特徴と学習者にとって難しいポイント	1	濱本千鶴子	1	井上依子
6	10月17日(水) 10:30-12:30	同上	同上	11人	日本語学習支援(入門者への留意点)	講義とワークを交えて、・入門者との活動・「実物」「写真」「絵」を活用	1	村井喜久美	1	井上依子
7	10月22日(月) 10:30-12:30	同上	同上	12人	日本語学習支援(初級者への留意点)	講義とワークを交えて、・初級者に対する留意点・テキストを選ぶポイント・テキスト「いっぽ、にほんご、さんぽ」	1	濱本千鶴子	1	井上依子
8	10月24日(水) 10:30-12:30	同上	同上	13人	日本語学習支援(中級・上級者への留意点)1.	講義とワークを交えて、・中・上級者の特徴・地域の日本語教室の役割・対話型学習のために身近な物を使う・テキスト「おしゃべりのたね」	1	村井喜久美	1	井上依子
9	10月29日(月) 10:30-12:30	同上	同上	12人	日本語学習支援(中級・上級者への留意点)2.	講義とワークを交えて、・「読む活動」について・身近な「読む」もの(請求書、領収書、お知らせ、取扱説明書)・「授業参観のお知らせ」をリソースとして	1	濱本千鶴子	1	井上依子
10	10月31日(水) 10:30-12:30	同上	同上	11人	京都市近郊の外国籍住民の現状。(公財)京都市国際センターの取り組み	・多言語での電話相談員から京都近郊に外国籍住民の現状を聞く。・(公財)京都市国際センター職員から京都府下での外国人支援の取り組みについて聞く	2	近藤徳明、神門佐千子	1	花岡正義
11	11月5日(月) 10:30-12:30	同上	同上	11人	ボランティア経験者の話を聞く/京都府下の日本語教室について	日本語学習支援ボランティアから経験談を聞く・日本語学習支援ボランティアグループの成り立ちと運営について・小中学生への支援経験・子育て中の親への支援経験	4	富武美知子、竹中克彦、池上信子、花岡正義	1	藤田茜
12	11月7日(水) 10:30-12:30	同上	同上	12人	まとめとして(生活者としての外国人のための日本語について)	・生活者日本語の活動を考える・社会参加の視点から現実の課題に気づく・課題を教室での活動の円滑化し、必要な知識と能力を身につける・参加者が持ち寄ったリソースで授業を考え発表・子どもの学校生活と日本語	1	浜田麻里	1	小寺敬子
13	随時	1.5時間	同上	10人	実際の学習支援を見学する	同左	5人	京都YWCAにほんご教室授業ボランティア		

(9) 特徴的な授業風景



2012.9.26「日本語学習支援ボランティアの役割」の講座

(10) 目標の達成状況・成果

- ① 受講者アンケートの結果からは概ね良い評価が得られた。
- ② 最後の回に、実際の学習支援の対象者を想定して、テキストだけではない生教材やリソースを準備してもらったのは特によかった。
- ③ 学習支援を行っているボランティアの経験談を聞いてもらう時間と、質疑応答を取ったこと、参加者に実際のクラスを見学してもらったことは、参加者が今後、実際に学習支援を行う上でよかった。
- ④ 講座の初回と最後を担当いただいた講師の浜田麻里さんの講義では、すでに支援をしている経験者にとっても、今後の学習支援を継続していく上で新たな学びであった。
- ⑤ 講座を受講後、もっと学びを深めたい、続けて他の講座を受講したいと希望されている方が複数人いらした。今後、地域で活動するボランティアが増えることと思う。

(11) 改善点について

- ① 第1回と11回については「生活者としての外国人」のための日本語に重点を置いた講座内容とした。これからボランティアを始める方、または経験の浅い方を参加対象としたので、第2回～9回までは、「日本語の基礎知識」とレベル別による支援の留意点という構成になった。その点では、「生活者としての外国人」のための日本語カリキュラムを十分に活用することができなかったかもしれない。
- ② 最終回には、「生活者としての外国人」を学習者として想定し、その人が必要な日本語を学ぶためのリソースを持ってきてもらってグループワークと発表を行ったが、もう数回、講座を増やし、一步踏み込んで模擬授業ができるとうよかった。
- ③ 新たにボランティアグループを立ち上げる方法や、また既存のグループに参加して活動する上でも、グループの継続的な運営の方法についての質問等が出ていたので、日本語の知識、教授法だけではなく、ボランティアグループの運営等についてのワークショップも組み込めるとよかった。

以上の点も含めて、講座の回数、時間数がもう少し多くてもよかった。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 : 子育てのための日本語テキスト
- (2) 対象 : ひらがな、カタカナの読み書きと簡単な日本語での会話ができる、日本語を母語としない子育て中、もしくはこれから子育てを予定している方。
- (3) 目的・目標 : 日本で子育てを行う中での戸惑いを軽減し、また、知らないことに直面した時には、たずねたり、調べたりすることができることを目的とする。支援者が学習者の文化、環境、教育制度や子育てなどについても知り、教室活動を行うこと目的とする。この教材を媒介として学習者、支援者がお互いを知り交流を深め子育て出来ることを目標とする。

- (4) 構成 : 子育て中の親が出会う場面(乳児から小学生までの生活場面)でよく使われる単語、文章(申込書、案内書、学級だより等)、会話、情報から構成されている。
- (5) 使い方 : 未就園、未就学児の親を対象とした個別の学習支援、グループでの日本語教室等で利用。
- (6) 具体的な活用例 同上
- (7) 成果物の添付 別途添付

8. 事業に対する評価について

- (1) 事業の目的 : 京都市内、及び近郊で暮らす外国語を母語とする親が子育てをするために必要な知識と日本語を習得するための日本語教室と、その学習を支援するボランティア養成を企画運営する。

- (2) 目標の達成状況・事業の成果

「日本語教室」「人材育成のための講座」「教材作成」の3つの事業を1年間足らずの間に取り組むことは初めてであり、検討、実施、教材作成のすべての面で時間が足りなかった。しかし、新たな内容に取り組むことを通じて、これまでの日本語教室運営だけではない発見もあった。提供する教室、講座の参加者の方々だけではなく、企画運営側の私たちにとっても、学びの多い事業であった。

- (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

「日本語教室」と「教材作成」での活用について:

「健康と安全」では「生活上の行為の事例」「学習項目の要素」「カリキュラム案の活用例」を参考にした。

「子育てと教育」では「生活上の行為の分類一覧」「生活上の行為の事例の整理」を参考にした。カリキュラム作成の際、場面で必要な情報の提供と場面で想定できる会話内容、参加者の日本語レベル等、全てを網羅することは非常に難しかった。しかし、今回、教材を作成するに当たり、「日本語教室」を担当した指導者全員での意見交換を通して、これまでの「日本語教室」で取り組んだ「子育てと教育」の教材が形になったことは、一つの成果である。今後、文化庁の委託事業以外でも、作成した教材を教室で活用したいと考えている。また、使用する中で改善点を見つけ、より良いものへ改訂していきたいと考えている。

「ボランティア講座」での活用について:

前述の6.(11)の通り。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

にほんご学習支援ボランティア講座

地域の関係者: 京都教育大学教授、大阪 YWCA 日本語教師会、(公財)京都府国際センター職員、多言語電話相談員

京都府下の日本語教室の現状を知ることができた。また、日本語の教授法等だけではなく、外国籍住民を取り巻く状況を知ることができたことは、今後、受講者が日本語の学習支援をする上で参考になったと思う。

日本語教室

地域の関係者: 地域自主防災会専門協力員、助産師、つどいの広場、多文化子育て支援グループ、京都 YWCA 子育て支援クラス参加者の日本人の親子

実際に地域活動している方(防災専門家、助産師、つどいの広場主宰者)から日本語の支援とは違った専門分野の話を聞くことができた話。京都YWCAの子育て支援のクラスに参加している日本人のお母さんたちと出会うことができ、教室活動で学んだ知識、会話力を活用する機会となった。教室で学ぶだけではなく、地域での交流の場に自信を持って出かけていききっかけになったと思う。

日本語教室の案内を通じて、京都市内で活動している Jafore(日本語を母語としない子育て家族を支援するグループ)という市民グループと関係を持つことができた。教室にも同団体のメンバーが複数回見学に来られ、今後、同様の活動を行っている団体として協力していける可能性が生まれた。

(5) 改善点, 今後の課題について

今年度、初めて 3 つの事業に取り組んだ。得られたことは多いが、時間的に難しいことがあり、次年度は 1 年の間に 3 つの事業に取り組むことは断念した。京都 YWCA の団体としての資質と技量を見極め、地域と協力しつつ、できることを一つ一つ丁寧に取り組んでいきたい。特に「子育て支援」は、長年、団体として取り組んでいる事業であり、地域や他団体との連携しつつ、日本語を母語としない方を含めて国籍、言語、文化を越え、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

(6) その他参考資料

「にほんご学習支援ボランティア入門講座」参加者向けアンケート

京都YWCA にほんご学習支援ボランティア入門講座 アンケート

この度は、講座に参加いただきありがとうございました。今後の企画運営のために、アンケートへの回答をお願いたします。

1. 本講座について、役でお知りになりましたか。(複数可)
2. 講座の回数について(全12回)
多い 適当 少ない
3. 講座の時間(1回2時間)について
長い 適当 短い
4. これまでのボランティア経験と講座の受講経験を教えてください。

日本語学習支援の経験	有	無
日本語初級講座受講経験	有	無
日本語学習支援ボランティアのための講座受講経験	有	無
5. 「日本語学習支援ボランティアの役割」について
よく理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった
その他
6. 「日本語基礎知識」について(文型、動詞、形容詞、文字・音声)
よく理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった
その他
7. 「日本語学習支援」について(学習者のレベルに応じた教え方の留意点)
よく理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった
その他

8. 「京都府下の日本語教室、外国人住民の現状、京都府国際センターの取り組み」について
とても参考になった 参考になった あまり参考にならないかった
参考になるなかった その他
9. 「ボランティア経験者の話を聞く」について
とても参考になった 参考になった あまり参考にならないかった
参考になるなかった その他
10. 「生活者としての外国人のための日本語について」
よく理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった
その他
11. 今回の講座を受講されて、今後のボランティア活動の参考になりましたか。
とても参考になった 参考になった あまり参考にならないかった
参考になるなかった その他
12. 日本語学習支援について、今回の講座の内容以外にどのような事を知りたいですか。
自由にお書きください。
□協力ありがとうございました。